

岡山大学の教職課程の理念と教師教育開発センターの役割

(1) 「大学における教員養成」と「開放制」

医師になるには医学部で学び、国家試験に合格しなければなりません。看護師も、看護教育を専門とする大学・学部や短期大学もしくは専門学校等で学び、国家試験に受かることが必要です。しかし「教師」は違います。教員養成を目的とする「教育学部」を卒業していなくても、教職に就くことは可能です。いったい、なぜでしょうか？

日本の教員養成制度には2つの原則があります。ひとつは「大学における教員養成」という原則であり、いまひとつは「開放制」という原則です。「大学における教員養成」とは、「教師は大学で養成する」ということです。言い換えると、「高等学校を卒業しただけでは教員になれない」、「専門学校では教員を養成しない」ということです。大学教育、つまり学士としての基礎を教養教育で培い、さらに個々の専門学部で研鑽を積むという、4年間の大学教育の修了者に教職への道を開くということです。

次に「開放制の原則」とは何でしょうか？ これは「教員の養成を教育学部に限定しない」ということです。多様な専門学部から輩出される人材にも教職への道を開き、教科の深い専門性と学問知識を持つ人材を学校現場に送りだそうという考え方です。つまり、学校現場は皆さんのように個々の専門学部で学んでいる人も求めているのです。

皆さんが所属している文学部、法学部、経済学部、理学部、工学部、環境理工学部、農学部では、その学問分野にふさわしい教科の教員免許状が取得できるよう、様々な工夫を凝らしてカリキュラムを編成し、文部科学省の認定を受けています。これを「課程認定」と言います。各学部では、そこに所属する先生方の総意として、皆さんの主要な進路のひとつに「教職」を位置づけ、皆さんをバックアップしているのです。

(2) 岡山大学の開放制教職課程の理念

本学の開放制教職課程の社会的使命（ミッション）は、「課程認定学部の専門教育が支える、優れた研究的実践力を有する中等教育教員の輩出」です。

まず、「中等教育教員」とは、中学校と高等学校の先生のことを指します。次に「優れた研究的実践力」とは、単に「教え方がうまい」とか「生徒に慕われる魅力がある」ということだけを言うものではありません。むしろ、「学習指導を通して生徒をより良く育むために、何を、どのようにすべきか？」と、自ら課題を発見・設定し、仮説を立て、実際に取り組み、検証し、解決へと至る一連の過程を実践できる力のことを、本学教職課程では「研究的実践力」と捉えています。

皆さんは、このような力を、大学教育の4年間、特に皆さんが所属する個々の専門学部の教育を通して身につけることとなります。皆さんが取得を希望する教員免許の教科について、その教科内容の学術的な背景を理解し、そこに精通することは、優れた授業実践力、学習指導力、教材研究力の源となります。このような基礎体力があつてこそ、優れた教師としてありつづけることができるのです。

「社会的使命（ミッション）」とは、社会に対して大学が宣誓し、達成することを約束した目標だと言えます。本学の教職課程の主役は皆さんであり、そして皆さんの所属している課程認定学部です。教師教育開発センターは、そのことを前提とし、学部の垣根を越え

て、皆さんを優れた教師に近づける役割を担っているのです。

(3) 教師教育開発センターの役割

皆さんのように、教育学部以外の学部に所属して教職をめざすことは、いわば「+α (プラスアルファ)」の負荷を自らに課すことを意味します。所属学部を卒業するのに必要な単位に加え、「教職課程の科目 (教員免許状を取得するのに必要な授業科目)」の単位を修得することになるからです。

教職課程の科目のうち、皆さんの専門学部では、主に「教科性」=教科の内容についてより深く学ぶ授業科目を開講しています。いっぽう、「教職性」=教師としての在り方や教科指導・学習指導の方法、教育実習に必要な実践的力量等を育む授業科目は、主に教育学部や教師教育開発センターに所属する教員が開講しています。

なかでも教師教育開発センターは、「全学教職コア・カリキュラム」を担当しています。「全学教職コア・カリキュラム」は、開放制教職課程の軸になる授業科目やプログラムであり、実践的な内容を多く含んでいます。1年次の「全学教職オリエンテーション」、「母校訪問」、2年次の「教職入門D I・D II」、3年次から4年次にかけて履修する「教育実習基礎研究 (教育実習の事前事後指導科目)」、4年次前半 (1・2学期) の「教育実習」、教職課程の総まとめとなる4年次後半 (3・4学期) の「教職実践演習」から成り立っています。

このほか、教師教育開発センターでは、教員採用試験の合格に向けた面接指導、小論文指導、模擬授業の指導等を行ったり、学校現場でのボランティア体験活動の機会を皆さんに紹介し、コーディネートしたりする業務にも取り組んでいます。このような取組を通して、教職をめざす学生たちが学部の枠をこえてつながる「場」としての役割を果たしています。

教職は、生徒たちのより良き成長と変容に立ち会える、とても素敵で幸せな職業です。皆さんを、優れた教師としてありつづけられる中学校・高等学校の先生に育みたい。これが、私たち教師教育開発センターの願いであり、役割なのです。